

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	邦舞
----	------	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきしゃだんほうじんにほんぶようきょうかい		団体ウェブサイトURL
	公益社団法人日本舞踊協会		<a href="http://www.nihonbuyou.or.jp/">http://www.nihonbuyou.or.jp/</a>
代表者職・氏名	会長近藤誠一		
制作団体所在地	〒 104-0054	最寄り駅(バス停)	都営大江戸線勝どき駅
	東京都中央区勝どき4-6-2-410		
電話番号	03-3533-6455		
ふりがな 公演団体名	こうえきしゃだんほうじんにほんぶようきょうかい		団体ウェブサイトURL
	公益社団法人日本舞踊協会		<a href="http://www.nihonbuyou.or.jp/">http://www.nihonbuyou.or.jp/</a>
代表者職・氏名	会長近藤誠一		
公演団体所在地	〒 104-0054	最寄り駅(バス停)	都営大江戸線勝どき駅
	東京都中央区勝どき4-6-2-410		
制作団体 設立年月	昭和30年(1955年)12月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	会長 近藤誠一/副会長 織田紘二 古井戸秀夫/ 常任理事 吾妻徳穂 井上八千代 西川箕乃助 松本幸四郎/理事 市山松扇 尾上菊之丞 猿 若清三郎 中村梅彌 花柳寿楽 花柳輔太郎 藤 間恵都子 水木佑歌 山村友五郎 若柳壽延/監 事 泉翔蓉 中原徹/名誉顧問 國分正明 尾上墨 雪 猿若清方 橘芳慧 花柳寿美 坂東勝友 藤間 勘祖 藤間藤太郎 松本白鸚 若柳宗樹/顧問 龍居竹之介	構成員/満15歳以上の日本舞踊家で、協会所 属流派の名取であること。 加入条件/この法人の目的及び事業に賛同 し、正会員2名の推薦を得ること。 会員数/ 3,553名 支部/26支部	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	城後一朗・山本真純
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	柳原幸子
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	<a href="mailto:info@nihonbuyou.or.jp">info@nihonbuyou.or.jp</a>		

制作団体沿革	<p>昭和24年2月、任意団体として日本舞踊協会設立。昭和30年12月、文部大臣から認可を受け、社団法人日本舞踊協会を設立。設立当初の会員数は2,488名で、それまで流派単位での活動が主だった日本舞踊界において、流派を超えて日本舞踊の普及発展に取り組む初めての公的組織として誕生した。以来68年、日本舞踊の魅力発信を図る公演事業を中心に、人材育成を目的としたコンクール公演、学校や地域で行うワークショップ、海外公演、映像作品の配信など、日本舞踊を通じて日本の文化の発展に寄与するためさまざまな活動を展開、実績と積み重ねてきた。平成24年4月には公益社団法人の認定を受け、さらに公益性の高い活動を行っている。現在では、会員数3,553名、傘下の支部・ブロックが全国31の都道府県に設置されており、全国的な組織として活動している。</p>	
学校等における公演実績	<p>東京都主催「キッズ伝統芸能体験」に協力団体として平成20年度より参加。東久留米総合高校定時制課程でのワークショップ(平成20～23年)、そのほか(公社)日本芸能実演家団体協議会主催の子供向けワークショップに多数参加協力。</p> <p>平成27年度からは、アーツカウンシル東京主催、東京都助成・協力の都内の小中高校にて子供向けプログラム「子供のための伝統文化・芸能体験事業」(実演とワークショップ)を、平成28年度からは、新宿区教育委員会主催の体験プログラム「伝統文化理解教育事業」にて小学生を対象とした日本舞踊のワークショップを実施中。また当協会の全国各支部・ブロックでも多数の子供向けワークショップを実施している。</p>	
特別支援学校等における公演実績	<p>鹿児島県立串木野養護学校(平成19年度本物の舞台芸術体験事業)</p> <p>香川県立聾学校(平成23年度次代を担う子どもの文化芸術体験事業)</p> <p>町田市立つくし野中学校特別支援級(平成28年度文化芸術による子供の育成事業・ワークショップ)</p> <p>都立八王子東特別支援学校・都立葛飾ろう学校(アーツカウンシル東京主催、平成28年度「子供のための伝統文化・芸能体験事業」)</p> <p>岡山県立岡山支援学校(平成30年度文化芸術による子供の育成事業・ワークショップ・本公演)</p> <p>北九州市立小倉北特別支援学校(令和3年度文化芸術による子供の育成事業・ワークショップ・本公演)</p>	
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有
	※公開資料有の場合URL	<a href="http://nihonbuyou.or.jp/pages/school">http://nihonbuyou.or.jp/pages/school</a> <a href="https://youtu.be/ZK_l-12VH5g?si=enOXbtmY8CwYq80W">https://youtu.be/ZK_l-12VH5g?si=enOXbtmY8CwYq80W</a>
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID: PW:

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 公益社団法人日本舞踊協会】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	ひらけ！日本舞踊のとびら			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	長唄「藤娘」・長唄「浦島」 プログラム構成・演出・振付・脚本：(公社)日本舞踊協会学校公演委員会  <b>【プログラム構成】</b> 鑑賞① 長唄「藤娘」 ●基本的な所作の体験 ●伝統的な音楽について知る 鑑賞② 素踊り作品の鑑賞 ●生演奏に合わせて表現・ワークショップでの成果発表 鑑賞③ 長唄「浦島」			公演時間 約100 分
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	
演目概要	<p>鑑賞・体験プログラム「ひらけ！日本舞踊のとびら！」          日本舞踊には長い伝統の中で育まれた日本人ならではの美しい所作(うごき)や踊りを彩る伝統音楽などたくさんの魅力が詰まっています。本プログラムでは、その魅力を、日本舞踊の世界のとびらを開いていくという展開でさまざまな角度からわかりやすく児童・生徒に伝えます。          第一線で活躍する日本舞踊家や演奏家たちが日本舞踊の鑑賞や体験を通して子供たちとのコミュニケーションを図り、伝統芸能や日本文化に対する興味や関心を引き出します。人から人へと数百年にわたって受け継がれてきた日本人ならではの身体表現やこころを次代を担う子供たちに受け渡します。</p> <p><b>鑑賞① 長唄「藤娘」</b>          日本舞踊を代表する作品、長唄「藤娘」の上演。女性の踊る可憐な所作の美しさ、視覚的にも鮮やかで印象的な衣裳やかつら、小道具など、日本舞踊の魅力が詰まった演目の鑑賞。</p> <p><b>基本の部屋【基本的な所作の体験】</b>          人から人へと伝承されてきた伝統芸能においては他者への礼儀は非常に大切な要素です。礼儀は型と心が一体となって成立するので、本場面では、美しい型と他者を尊重し思いやる気持ちを込めた挨拶のしかたを知り、相手への敬意や感謝を伝えるための挨拶を実践します。型を通して心を表現することの大切さを体感してもらいます。</p> <p><b>聞く部屋【伝統的な音楽について知る】</b>          日本の伝統音楽である邦楽は日本舞踊の伴奏音楽として上演に不可欠な要素です。邦楽の唄や三味線、太鼓や笛などの実演を交えながらその特徴を解説、さらには日本舞踊と邦楽の関わりを学びます。さらに日本舞踊を支えるスタッフの仕事(狂言方、大道具、照明、音響など)についても紹介、舞台の成り立ちを総合的に学習します。</p> <p><b>鑑賞② 素踊り作品の鑑賞</b>          日本舞踊と伝統音楽との関わりの学習を踏まえ、それらが実際に舞台上どのように表現されるかを鑑賞します。本作品は日本舞踊の大きな特徴である素踊りという形式で上演。素踊りは役柄を表す衣裳を着ることなく、紋付に袴や日常的な着物姿で踊るもので、熟練された日本舞踊家の技芸を通して、風や木々、打ち寄せる波など自然の風物や気象など、様々な情景や役を踊り分けます。</p> <p><b>踊る部屋【生演奏に合わせて表現・ワークショップでの成果発表】</b>          これまで学習した日本舞踊のさまざまな要素を踏まえ、実際に子供たちが日本舞踊を踊ることを体験。日本舞踊に代表される所作(動作)を体験し、日本舞踊ならではの独特な身体の使い方や型を学び、邦楽に乗せて踊る楽しさを体験します。          ※ワークショップに参加した児童たちの成果発表を行います。</p> <p><b>鑑賞③ 長唄「浦島」</b>          江戸時代に初演された形をほぼそのまま残す歌舞伎舞踊の鑑賞。「ぶっかえり」と言われる扮装を瞬間にして変化させる手法も盛り込まれ、現代の子供達にも新鮮な印象を与えます。題材としても童話を元とした親しみやすい作品であり、本作品を通して日本舞踊への関心、理解を深めます。</p> <p>なお、本公演鑑賞用に日本舞踊覚書というイラストや写真をふんだんに使った教材を提供。日本舞踊をより深く理解する助けとします。</p>			

<p><b>演目選択理由</b></p>	<p>長唄「藤娘」 長唄「藤娘」は日本舞踊の代表的な女方の作品のひとつであり、可憐な所作の美しさ、視覚的にも印象的な衣裳やかつら、小道具など、子供たちのこころに残る日本舞踊の魅力が詰まった演目として選択した。</p> <p>長唄「浦島」 長唄「浦島」は幅広い年代に知られる浦島伝説が題材となった演目で1828年の初演から今もお親しまれている。二枚扇を巧みに扱う非常に難易度の高い舞踊の魅力に加え、舞台上で一瞬にして老人へと扮装を変化させる「ぶっかえり」という初演時より今に形を残す伝統的な上演形式を含み、現代の子供たちの目に新鮮な舞台を届けられると考え選択した。</p>																				
<p><b>児童・生徒の共演、参加又は体験の形態</b></p>	<p>共演場面：ワークショップを体験した児童・生徒が、本公演の中で童謡「浦島太郎」の踊りを発表する際、演奏家による邦楽器の生演奏に合わせて共演します。 体験は、全児童・生徒が体育館のフロアで、日本舞踊の基本的な所作や美しい表現を学び、邦楽器の生演奏に合わせて踊ります。公演の本編では、ステージ上で出演者が解説を交えながら見本をみせるほか、体育館のフロアでも日本舞踊家が児童・生徒の間近で、直接指導します。</p>																				
<p><b>出演者</b></p>	<p>長唄「浦島」花ノ本寿、長唄「藤娘」藤間蘭翔 *日本舞踊家は、文化庁と当協会共催事業のコンクール公演「各流派合同新春舞踊大会」で受賞歴のある中堅・若手の実力舞踊家が出演。邦楽演奏家も演奏会、舞踊公演等、第一線で活躍中のメンバーが出演します。</p>																				
<p><b>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む</b></p>	<table border="1"> <tr> <td>出演者:</td> <td>18</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>スタッフ:</td> <td>21</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>合計:</td> <td>39</td> <td>名</td> </tr> </table>	出演者:	18	名	スタッフ:	21	名	合計:	39	名	<p><b>運搬</b></p>	<table border="1"> <tr> <td>積載量:</td> <td>3~4</td> <td>t</td> </tr> <tr> <td>車長:</td> <td>10</td> <td>m</td> </tr> <tr> <td>台数:</td> <td>2</td> <td>台</td> </tr> </table>	積載量:	3~4	t	車長:	10	m	台数:	2	台
出演者:	18	名																			
スタッフ:	21	名																			
合計:	39	名																			
積載量:	3~4	t																			
車長:	10	m																			
台数:	2	台																			

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時頃	8時頃～11時頃	13時半頃～15時頃	10分程度	1時間半程度	～17時頃
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。						

本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	11月	12月	1月	計	24日	
	14日	10日				
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	～100名
		鑑賞人数目安	～500名

公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

【公演団体名 公益社団法人日本舞踊協会】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	1つの学年対象(2~4クラス想定) ※浴衣の着人数には上限があります。
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>「ヨーイ！日本舞踊」 浴衣を着用し、美しい姿勢で相手への敬意や感謝を伝える挨拶のしかたや、お扇子を使った踊り、自分以外の役柄を演じる体験など、日本舞踊ならではの表現を学びます。 本公演に出演する日本舞踊家が直接指導を行い、間近な距離で実演を披露。実技のほかにも質疑応答や感想を伝え合う対話の時間を設け、日本舞踊や実演家への興味関心を引き出します。</p> <p>【ワークショップの流れ(標準90分程度)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●参加者集合・浴衣の着付 浴衣(着用できる人数に上限があります)を子供たちに着付け、着物の特徴を活かした日本舞踊を学ぶ準備をします。</li> <li>●講師からご挨拶／自己紹介(講師) 自己紹介では、講師の思う日本舞踊の魅力(型や好きな表現など)や、講師がこどもだった頃のエピソード等を交えて話し、日本舞踊がどんなものかイメージをふくらませてもらい、日本舞踊家をより身近に感じてもらいます。</li> <li>●基本的な所作を体験(お辞儀・すり足・まわる・踏む・飛ぶ)</li> <li>●踊りを踊ってみよう！ お扇子の表現を学び、このプログラムのために制作した童謡「浦島太郎」邦楽バージョンに合わせた踊りを踊ります。風や波などの自然の風景、動物、若い役柄から年老いた表現まで、様々な役を演じ分ける踊りを体験します。</li> <li>●実演披露 こどもたちが実際に体験した曲を講師が間近な距離で実演。芸を継承する日本舞踊家の迫真の踊りを鑑賞し、他のダンスとの違いや日本舞踊ならではの豊かな表現を学んでもらいます。</li> <li>●質疑応答タイム・最後のご挨拶・記念撮影など</li> </ul>		
<p>ワークショップのねらい</p>	<p>ワークショップでは本公演の内容をより理解しやすくする目的と同時に、本公演に携わる日本舞踊家と生徒(児童)との交流を深め、共に日本舞踊を体験する事により、日本舞踊や日本舞踊家に親んでもらう。そのため、日本舞踊の稽古においてユニホームとも言える浴衣を子供たちに着付けるところからワークショップが始まります。着物の特徴を活かした動き(所作)を体験することで、日本舞踊独自の身体表現を本格的に学ぶことができる。プログラムの踊りを踊ってみよう！のコーナーでは子供たちにも扇子を使ったポーズを創作してもらうなど創意表現する楽しみも体感する。また、プロの日本舞踊家の踊りを鑑賞する時間も設け、長年の修練で培われた技芸に触れることで伝統芸能の奥深さを知る。最後には質疑応答の時間もとり、子供たちの目線に近い対話をする事で言葉でも積極的に伝統芸能や日本舞踊の魅力を伝える。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>講師はステージの上とフロアで実演を披露するほか、フロアで体験している児童・生徒の間に入り、直接指導します。 ワークショップで体験した踊りを、本公演で生演奏に合わせて発表することを想定しています。</p>		

## 本事業への申請理由

【公演団体名 公益社団法人日本舞踊協会】

本事業に対する  
取り組み姿勢、および  
効果的かつ円滑に実施  
するための工夫

## ①本事業に対する取り組み姿勢

当協会は本事業の趣旨に賛同し、事業開始の昭和63年より参加してきた。日本舞踊は今年、国の重要無形文化財に指定され、その豊かな芸術性と価値が広く認められたが、日本舞踊のような伝統芸能や日本文化は、学校教育の中でも中心的に学習される分野ではなく、また社会や生活様式の変化などにより、子供たちが鑑賞したり体験する機会が極めて少ないのが現状である。日本人が日本という風土の中で生み出し、長年にわたって受け継ぎ発展させてきた日本舞踊には、日本人固有の美やユーモア、心の機微が舞踊という表現で凝縮されている。これらの魅力を有し、長い歴史をかけて継承しながらも、今なお進化を続けている日本舞踊を体験することは、次代を担う子供たちが国際人として、物事に柔軟に関わる力や、問題解決能力やコミュニケーション能力等を高めることにも繋がる。子供たちには日本舞踊に親しみ、日本の多様な文化芸術や豊かな生き方を体現する実演家と触れることで、自身の感性や文化芸術への関心を大切に育んでいってもらいたい。

事業の目的を達成するため行っている取り組みは以下のとおり。

\*実施体制について…国の重要無形文化財日本舞踊総合認定保持者を筆頭とした専門委員会を設置。協会役員と子供向け事業で経験豊富な舞踊家、事務局スタッフで構成する委員会を協会内に設置し、企画構成、演目・出演者・振付者の選定等について検討を重ねプログラムを制作。ワークショップ・本公演の際には、担当役員や振付者などが視察し、公演の質を保つよう努めている。また広報面では、ホームページやSNSなどを利用して、プログラムの広報活動にも力を注いでいる。なお、ワークショップの指導のサポートには、現地の日本舞踊協会会員とも協同して行っており、公演後も学校や地域からの要望に応じて、継続して伝統芸能教育に協力することも可能である。

\*制作について…台本作成時から公演当日まで学校側や各セクションと密な意思疎通を図る台本作成の際には、過去の台本や記録映像、他の子供向け事業での取り組みを参考に直しを行い、子供たちに楽しく体験しながら学んでもらうために、毎年改良を重ねている。子供たちに伝わりやすい解説・言葉選び・身近に感じる雰囲気づくり等にも配慮している。そのほか本公演での安全確保、環境の整備、各コーナーの細かい段取りについては特に各セクションのスタッフと入念にシミュレーションを行っている。学校の教員、出演者、舞台監督・大道具・衣裳・小道具・照明・音響・制作の連携により、各校の要望に即した鑑賞・体験型プログラムの上演を行う。日本舞踊家、演奏家、舞台を作り上げるスタッフともに子供たちに文化芸術の魅力を届ける案内役としての役割に責任と誇りを持って参加してもらえるよう対話を重ねている。なお各関係業者には、事業の趣旨を踏まえ、通常よりも低廉な価格で協力を仰ぎ、経費の削減を図りつつも質の高いプログラムを提供できるよう努めている。

\*キャスティングについて…子供向け事業にて豊富な経験がある若手実力派が出演。出演者には、例年、受賞歴を持つ舞踊家や東京都主催キッズ伝統芸能体験事業の講師経験者など、子供向け事業で豊富な経験と実力を有する舞踊家から選出。実演を披露する出演者は、文化庁と当協会共催の日本舞踊のコンクール公演(各流派合同新春舞踊大会)での受賞歴のある中堅および若手の日本舞踊家である。振付者においても指導に定評がある舞踊家が担当し、本番に至るまで多数の稽古を重ねている。協会会員にとって出演が目標となるような事業として内部で位置づけ、公演のレベルを維持している。

## ②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

実施校とは、事前連絡から実施まで一貫して密なコミュニケーションをとるよう心がけている。ワークショップ・本公演ともに基本の実施形態はあるが、最大限にこの機会を活用してもらえるよう、各学校のニーズに柔軟に対応する。

ワークショップでの学習成果の発表のために、復習用の動画を提供するほか、「日本舞踊覚書」というイラストや写真をふんだんに使った教材をこの公演用に作成し全校に配布。本公演前の手引きとして、また鑑賞後の学びを、より深めてもらえるよう内容を工夫している。

ワークショップの際は、各学校のご賛同のもと、各学校の近隣で活動している当協会の協会会員にも指導のサポートをお願いしており、地元の実演家と子供が近い距離で交流できる貴重な機会として好評を得ている。

実演家が学校に赴き子供たちに日本舞踊の魅力を伝えることの意味を踏まえ、ワークショップ・本公演を通じて子供たちと積極的に交流を図り、自分の思う日本舞踊の魅力を話すほか、身近な事柄を日本舞踊で表現するとどうなるかという実演をしたり、実演家になるきっかけとなったエピソードを話したり、子供の視点に立ちつつも、実演家ならではの視点でメッセージを伝えるよう心がけている。

ワークショップ・本公演では、教職員や保護者、地域の方々にも鑑賞してもらい、理解を深めていただくことで、本事業を通じて、学校や家庭でのコミュニケーション活性化のきっかけとなること、また、日本の伝統芸能の素晴らしさを改めて認識してもらうことを願っている。